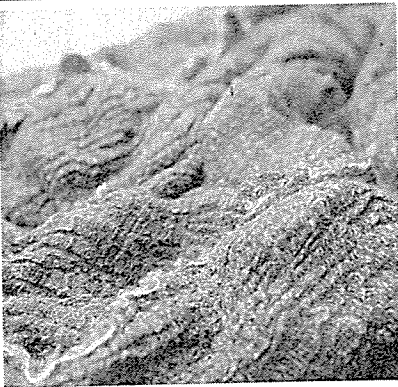


これまでの粗目織物にない表情に仕上がった(写真は試作中の生地)



笹田織物 蚊帳地の新感覚ストール 染工場と協業で開発・展開

奈良織物産地の笹田織物(奈良県田原本町)は、産地染工場と共同で粗目織物の特徴を生かしたエ

アリーな新感覚ストールを開発し、9月の「東京インターナショナル・ギフト・ショー」で初披露する。

同商品はポリエステル・レーヨン混紡糸で粗く織った生地を製品染めの後加工で、組織を約3分の1まで収縮させたもの。「やわらかストール」など、同社の従

来品より柔らかさや軽快感に優れるだけ

でなく、ふわふわとした空気感あふれる見た目に仕上げた。

粗目組織は糸の間の空隙で色が薄まり濃色表現が難しい。「従来品は淡色中心の展開で、購買層もシニアに偏りがち」(笹田昌孝社長)だったが、新

製品はより深みのある色表現が可能で、初披露に向けてビビッドな色目やインクジェット捺染による柄物も開発した。「若年層まで訴求ターゲットを広げ、OEM展開にも幅を出したい」と意気込む。販売も協業先と共通ブランドで展開する。百貨

店大手が常設販売かブランドで採用を検討しているほか、協業先もストール以外に縫製アイテムへの展開も視野に入れて提案中。デザイナースブランドからも既に好感触を得たという。

OEM対応も積極的に行う同社のストールは、取り組み先から秋冬対応商品の開発要望も多い。これを受けて同社は今後、ウール使いにも挑戦する。部分整経機も保有するため経糸ウール品も視野に、ウール使い製品の開発にも取り組む。